

まちづくり来ぶらり

まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料、建築・交通・環境などの図書、研究機関・シンクタンクなどの調査研究報告書などを収集しています。

特集 名古屋市役所本庁舎

高さ 53 m の中央塔が印象的な名古屋市役所本庁舎は 1928 年（昭和 3 年）の御大典記念事業として計画、建築されました。1931 年（昭和 6 年）に起工、1933 年（昭和 8 年）に竣工しています。

建物は洋風の建物に和風の屋根をもつ和洋折衷の帝冠様式で、先に建築された神奈川県庁舎の流れをくんでおり、工事監理には神奈川県庁舎を担当した技術者が招聘されました。

外観設計は公募により、559 通の応募の中から選ばれた平林金吾氏が行い、内部設計は名古屋市土木部建築課、工事施工は大倉土木株式会社が担当しました。地上 5 階、地下 1 階、地上 10 階の塔屋付き、鉄骨鉄筋コンクリート造、中央塔の四柱屋根先端には四方にらみのシャチをのせています。

また、中庭をもち後方に議場を設けるという、当時の典型的な地方庁舎の平面形状であり、議場は市政を丸く治めようと円卓議場（名古屋市会本会議場）となっています。



1998 年（平成 10 年）には、国の登録有形文化財にも指定されています。

大型のテラコッタにクリーム色とチョコレート色の筋入りタイル、建物正面 1、2 階にはヒシャ石と裏側はヒシャ石に似た人工石である富国石が施された外観と大理石の正面階段等、建物の内部は建築当時と変わらぬ姿で、近年は様々なテレビドラマや映画の撮影ロケ地として使用されています。

◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
『名古屋市庁舎新築工事写真帖』大倉土木株式会社／編 (Sc- オ)
『名古屋今昔散歩』原島広至／著 中経出版 (Sc- ハ)
『名古屋開府四百年史』愛知県郷土資料刊行会編集部／編 (Se- パ)
『日本近代建築大全 西日本篇』米山勇／監 講談社 (Id- ヨ)
『名古屋市中区誌』中区制施行 100 周年記念事業実行委員会／編 (2B21-2010)

まちづくりライブラリー資料展

「尾張名所図会にみる名古屋」展

2014年6月27日(金)
～9月24日(水)



尾張名所図会を中心とする尾張の地誌に関する資料を展示いたします。

「懐かしいまちなみ」の写真をご提供ください

名古屋のまちの姿をいつまでも語り継ぎ、まちづくりの基礎資料とするため、名古屋市内で撮影された「懐かしいまちなみ」の写真を収集しています。

明治期から昭和 30 年代に撮影された写真がありましたら、ぜひご提供ください。



- ご提供いただきました写真は、電子データとして保存し、パネル・印刷物等に利用させていただくことがあります。
- ご提供いただける場合は、お電話にてご連絡ください。
まちづくりライブラリー TEL : 052-678-2212

お気に入りの一冊 「古地図で楽しむなごや今昔」

名古屋のまちは来る 2027 年のリニア中央新幹線開業に向けて、その姿を大きく変えようとしています。こうした中、時には名古屋のまちの歴史を振り返り、そして将来のまちの姿に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

本書は、編著者である溝口氏のほか、24 名に上る郷土史やまちづくり等を研究している方々が分担して執筆し、多面的に名古屋のまちの歴史をとらえています。江戸時代以降現在に至る各年代の地図を用いてまちの姿の変遷を概観し、GIS や人工衛星を活用して分析した現在の名古屋の姿なども紹介されています。

「[Part3] なごや歴史幻視行—地図を読む 地図で歩く」が本書のメインとなる部分であり、通常の名古屋を紹介した本には出てこない、市民にとってより身近な生活の場の歴史が地図を通して紹介されています。例えば戦中～戦後の広小路沿いにどのような建物があったのか古地図で紹介したり、一見すると整然とした碁盤目状に見えるまちの中にも、昭和区御器所地区のように一部の不規則な道路配置にかつての御器所村の名残が残っている点など、興味深い事例がいくつも紹介されています。読み終わった後、実際にどうなっているのか地図を片手にまち歩きに出たくなる一冊です。

なお、名古屋都市センターでは日本や世界の都市の古地図（複製本）をはじめ、国土地理院 10,000 分の 1 地形図や全国主要都市の都市計画図などが閲覧できますので、ご興味のある方は 12F ライブラリーへお立ち寄りください。(T)

著　　者：溝口常俊
出 版 社：風媒社
請求番号：Sc-ミ

